

「BE KOBE 近現代史」プロジェクト



鈴木商店ゆかりのまち歩き  
ガイドマップ

GUIDE MAP



「鈴木商店」は、明治7年に神戸で開業し、日本有数の大商社に発展しました。同商店は、米騒動、大恐慌と激動の時代に翻弄されましたが、倒産後も鈴木商店スピリッツは日本経済をけん引する企業に脈々と受け継がれています。神戸を舞台に世界で活躍した鈴木商店の足跡を一緒にたどりましょう。

発行・神戸市/作成協力・辰巳会 鈴木商店記念館



# 鈴木商店ゆかりの地・史跡



## 主な出来事

慶応3年12月7日 (1868年1月1日)	兵庫開港（神戸開港）
明治7年(1874)	鈴木岩治郎が弁天浜に鈴木商店を創業
明治27年(1894)	岩治郎の死去後、店主鈴木よねは番頭の金子直吉らに事業を任せ経営を続ける
	<b>事業の拡大・多角化を進める</b>
大正6年(1917)	日本一の貿易年商となる
大正7年(1918)	米騒動により本店が焼き打ちに合う
昭和2年(1927)	金融恐慌の影響で経営破綻

## A

### 神戸市立博物館

神戸市立南蛮美術館と考古館を統合し、昭和57年(1982)秋に開館。建物は、昭和10年(1935)竣工の、旧横浜正金銀行(現・三菱UFJ銀行)神戸支店ビルを転用しています。「金子直吉書簡」(天下三分之計)など鈴木商店ゆかりの資料・図書も所蔵しています。



神戸市立博物館蔵

## B

### 海岸通の本店跡

〈大正9年(1920)～昭和2年(1927)〉

大正7年(1918)に起こった米騒動による焼き打ち事件で焼失した鈴木商店は、大正9年(1920)に海岸通に移転。その後も経営の多角化を進めましたが、金融恐慌による影響で経営が悪化し、昭和2年(1927)に経営破綻となりました。



※写真はレファートコレクションより

【旧居留地京橋付近】

## C

### 旧外国人居留地

安政5年(1858)の日米修好通商条約によって外国人居留地が設置されることとなり、126の区画に整備されました。創業間もない鈴木商店は、居留地に支店を構えるエム・ラスベ商会、オットー・ライマース商会、シモン・エヴァース商会等の外国商館との取引を行っていました。



【居留地の碑】

## D

### 栄町通3丁目・4丁目の本店跡

〈明治37年(1904)～大正5年(1916)〉

明治37年(1904)、個人企業であった鈴木商店は合名会社に改組して「合名会社 鈴木商店」となり、それを機に栄町通4丁目から同3丁目に移転しました。栄町通は、洋風で重厚な建築が軒を連ね「東洋のウォール街」と呼ばれる程の繁栄を誇りました。



【大正期の栄町通を描いた絵はがき】

## E

### 本店跡地の碑

〈大正5年(1916)～大正9年(1920)〉

当時東川崎町(現・栄町通7丁目)に本店があったことを記念し、神戸開港150周年を迎えた平成29年(2017)に、辰巳会鈴木商店記念館によって設置されました。碑の土台に使用されているレンガは、かつて鈴木商店が経営していた大里製粉所(現・北九州市門司区大里)の工場建屋に使用されていたものです。



## 参考

- ・辰巳会 鈴木商店記念館「神戸(中心部)」[http://www.suzukishoten-museum.com/footstep/area/kobe\\_center/](http://www.suzukishoten-museum.com/footstep/area/kobe_center/)
- 「鈴木商店年表」<https://jaa2100.org/suzukishoten-museum/>
- ・『新修神戸市史 経済産業編Ⅳ 総論』神戸市 平成26年(2014) 68～69頁

# 鈴木商店ゆかりの地・史跡

※当時の町名をもとに掲載しています。



**D** 栄町通 3 丁目の鈴木商店本店跡

**D** 栄町通 4 丁目の鈴木商店本店跡

**B** 海岸通の鈴木商店本店跡

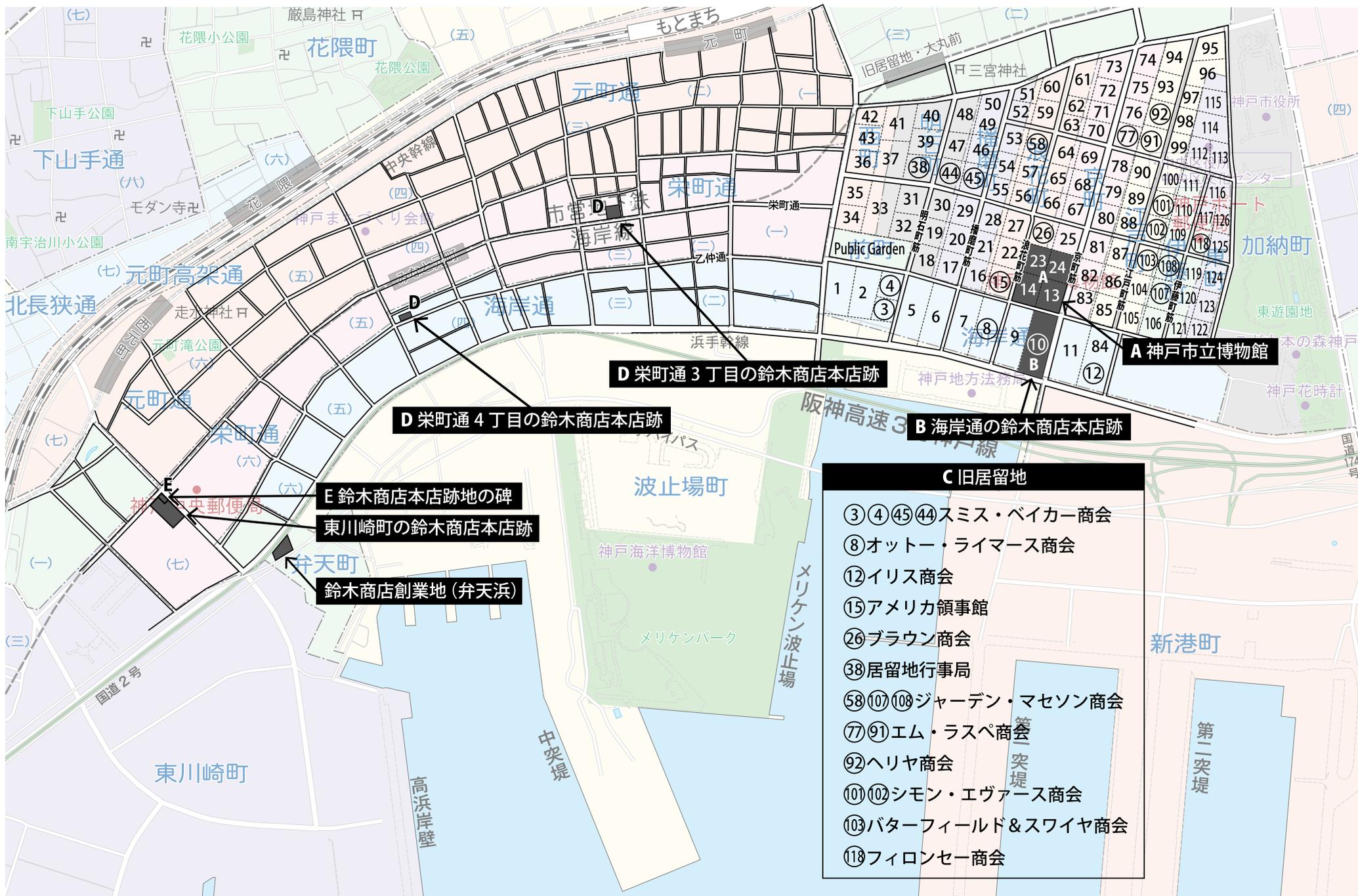
**A** 神戸市立博物館

**E** 鈴木商店本店跡地の碑

東川崎町の鈴木商店本店跡

鈴木商店創業地 (弁天浜)

- C 旧居留地**
- ③④④⑤④④ スミス・ベイカー商会
  - ⑧ オットー・ライマース商会
  - ⑫ イリス商会
  - ⑮ アメリカ領事館
  - ⑳ ブラウン商会
  - ㉔ 居留地行事局
  - ⑤⑧⑩⑩⑧ ジャーデン・マセソン商会
  - ⑦⑦⑨① エム・ラスペ商会
  - ⑨② ヘリヤ商会
  - ⑩①⑩② シモン・エヴァース商会
  - ⑩③ バターフィールド&スワイヤ商会
  - ⑩⑧ フィロンセー商会



**D 栄町通 3丁目の鈴木商店本店跡**

**D 栄町通 4丁目の鈴木商店本店跡**

**E 鈴木商店本店跡地の碑  
東川崎町の鈴木商店本店跡**

**鈴木商店創業地 (弁天浜)**

**B 海岸通の鈴木商店本店跡**

**A 神戸市立博物館**

- C 旧居留地**
- ③④④⑤④④ スミス・ベイカー商会
  - ⑧ オットー・ライマース商会
  - ⑫ イリス商会
  - ⑮ アメリカ領事館
  - ⑳ ブラウン商会
  - ㉓ 居留地行事局
  - ⑤⑧⑩⑩⑧ ジャーデン・マセソン商会
  - ⑦⑦⑨① エム・ラスペ商会
  - ⑨② ヘリヤ商会
  - ⑩①⑩② シモン・エヴァース商会
  - ⑩③ バターフィールド&スワイヤ商会
  - ⑩⑧ フィロンセー商会



# BE KOBE 神戸の近現代史 公開中!



「BE KOBE 近現代史」プロジェクトでは、特設 Web サイト「神戸の近現代史」ページを作成し、幕末（1850 年以降）から現在に至るまでに神戸で起こった出来事を年表形式で掲載しています。今回は、掲載中の記事「鈴木商店とその系譜」の一部をご紹介します。



【神戸の近現代史】

## 創業と躍進

明治 7 年（1874）に創業した鈴木商店は、当時は神戸の弁天浜で砂糖の輸入に従事しており、その後、樟脳油（しょうのうゆ）の取り扱いに進出することで飛躍を遂げました。また、北九州に製糖所を設立することで製造業への進出を果たします。その他にも、タバコ、製鋼、製塩、製粉、セルロイド、人造絹糸（けんし）などの製造に進出。特に大番頭であった金子直吉の積極的な経営多角化により、第一次世界大戦の戦時景気を機に大躍進を遂げました。

## 倒産とその後

大正 7 年（1918）に富山で始まった米騒動が神戸にも伝わると、鈴木商店が焼き打ちされるという事件が起こります。その後、昭和 2 年（1927）に金融恐慌が起こると、鈴木商店と金融的後ろ盾であった台湾銀行との取引が断絶され、その結果鈴木商店は事実上倒産。それを受けて旧鈴木系の企業が整理され、神戸製鋼所などは台湾銀行の管理のもとで営業を続けていくことになりました。また、鈴木商店の本業である商社活動は、新たに設立された日商に引き継がれていきました。

## Web サイト「辰巳会 鈴木商店記念館」

鈴木商店の親睦会による「辰巳会」が運営する Web サイト「鈴木商店記念館」では、鈴木商店の歴史・関連人物・関連企業などを紹介しています。



【鈴木商店記念館】

2023 年 2 月 24 日 初版第 1 刷発行  
2023 年 3 月 24 日 第 2 版第 1 刷発行